

オンライン授業実施にあたってのガイドライン

2020年5月4日版

副学長（教育担当）

長谷川 勝一

オンライン授業の実施では短期間の準備期間に関わらず、多数の科目の開講にご協力いただきましてありがとうございます。非常勤講師を除いた前期開講科目数は50%を超える見込みです。

短期間に、それぞれの先生方が、それぞれのスタイルで、多数の科目を開講されたことにより、様々なサービスや利用方法への対応が必要となってきました。

対応する学生への負担の問題と、学修・学術情報センターの支援体制の問題が出てきましたので、オンライン授業に関する一定のガイドラインを定め、学生が授業に集中できるようにしたいと思います。

ガイドラインに基づく強制や禁止を意味するものではありませんが、趣旨をご理解の上、5月11日以降のオンライン授業の実施にご配慮、ご協力いただけますと幸いです。

なお、少人数の授業などで、教員と学生の相互の協力関係があるものについては従来通りで構いません。

オンライン授業に関する学修・学術情報センターのサポート対象として、

- ・ WebClass
- ・ ハングアウト
- ・ CLEVAS

に集約化させていただきたいと思いますので、ご理解ください。

1) WebClass の活用について

出席確認

教材提供（PDF資料、音声・動画配信など）

質疑応答（チャット機能）

など、基本的な事柄については、なるべく WebClass での確認、配信をお願いします。

2) 授業の流れの指示について

WebClass のタイムラインや使用する教材の最初の頁を利用して、授業の流れを学生に提示してください。

例えば、

- (1) 出席確認
- (2) 資料1を確認

- (3) チャットで質問する（質疑応答）
- (4) 資料2を確認
- (5) チャットで質問する（質疑応答）
- (6) 確認テスト・アンケートに回答する

など、その日の授業の簡単な流れを学生に示してください。

3) リアルタイムのやり取りについて

質疑応答など、リアルタイムのやり取りについては、WebClass のチャットか Google ハングアウトを活用ください。

Google ハングアウトは大学のアドレスで利用できます。

教員に Google ハングアウトを設定した iPad を貸与することができますので、利用される先生は申し出てください。

LINE の活用については、禁止するものではありませんが、私的なものであることを踏まえ、学生との信頼関係のもとで ID を取得するようにお願いします。

LINE に参加しなければ授業が受けられない、と受け取られないようにお願いします。

学生の中には、個人的なつながりに慎重なケースもありますので、ご配慮ください。

4) ビデオ通話（テレビ会議）について

ビデオ通話（テレビ会議）は、通信中にデータを大量にやり取りします。

長時間の使用につきましては、学生の負担も考え、慎重に対応ください。

以上